

論壇

日本にも大きな影響

米国の大統領選挙が近づいてきた。海の向こうの国のことであるが、米国の政治は世界に大きな影響を及ぼす存在である。これまで、日本も大きな影響を受けてきた。議員内閣制の日本と違って大統領制の米国では、大統領が変わると政治が大きく変わることが少なくない。

過去の歴史を遡(さかの)らしてみても、米国に新しい大統領が生まれると、世界を大きく変えるような動きが出る(ことが)少なくない。19

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

80年に就任したレーガン大統領は小さな政府を志向して、規制緩和や減税を断行した。レーガノミクスと呼ばれる政策だ。規制緩和はその後日本も巻き込む大きなうねりとなった。

規制緩和は基本的に好ましいものであったが、レーガノミクスにやメキシコの破綻の原因となる。レーガン大統領の後に就任したクリントン大統領(ヒラリー候補の夫)は、日米貿易摩擦で厳しい姿勢で臨み、日本の産業界や政府が苦しむことになる。当時の貿易摩擦の激しさは今の若い人には想像ができないかもしれない。

世界を変える米大統領選

他の国に厳しい影響を及ぼす面も少なくなかった。レーガノミクスの減税の結果、米国はレーガン大統領の初期に深刻な財政赤字を抱えることになる。これが極端なドル高と金利高をまねき、ドルで大きな債務を抱えていたブラジル

ブッシュ大統領は、就任してまもなく、9・11のテロ事件に遭遇することになる。これがきっかけで、アフガニスタン攻撃やイラク戦争に発展することになる。世界

っている面がある。

気になる内向き姿勢

ヒラリー・クリントン候補とトランプ候補の論戦を聞いていると、この先の米国がどのような動きをするのか不安になる。トランプ候補のこれまでの発言をそのまま実行に移すことになれば、大変なことになる。日本に防衛費の負担の増額を求める。TPPはもつ

ての外だし、必要があればWTO(世界貿易機関)のルールを破ることだってありうる。メキシコとの間に巨大な壁をつくって人の流入を防ぐ。

いくらなんでもここまでやらな

いるはずだ。ただ、トランプ候補の発言を聞いてるのは、強烈なアメリカ・ファーストの思想だし、内向きの姿勢だ。通商問題についての認識は20年はずれているという感じさ。いままで一度も政治家の経験がないというのも不安材料だ。

大統領夫人(ファーストレディ)や国務長官として政治の経験が豊富なクリントン候補は安定感を感じさせる。それでもトランプ候補の過激な発言に引張られて、通商交渉での保護主義的な姿勢は気になる。いずれにしても、11月までの討論に、読者の皆さんもぜひ関心をもってもらいたい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。